

心と経済の関係について考
えるとき、重要なことの一つ
は善悪に関わる倫理観と価値
観です。経済学には、倫理観
や価値観とは中立に科学的に
「経済資源がどのように配分
されているか」という問題に
取り組む実証経済学と、「経
済資源がどのように配分され
るべきか」という問題に取り
組む規範経済学があります。
規範経済学の方は「べき」と
いう以上、倫理観や価値観か
ら中立ではありえません。

やさしい こころと**経済学**

第2章 倫理観・価値観と絆

1

慶応義塾大学教授 大垣 昌夫

現在の経済学で広く受け入
れられている倫理観は「厚生
主義」です。厚生は幸福に近
い概念ですが、経済学での厚
生は、様々な消費と余暇によ
って得られる快感で「効用」
(満足度)と呼ばれます。厚
生主義は効用を高めることを
最高の倫理価値とします。

現在の経済学で広く受け入
れられている倫理観は「厚生
主義」です。厚生は幸福に近
い概念ですが、経済学での厚
生は、様々な消費と余暇によ
って得られる快感で「効用」
(満足度)と呼ばれます。厚
生主義は効用を高めることを
最高の倫理価値とします。



善悪をどう捉えるか

算済みで、ドラッグから得ら
れる快感を選ぶわけです。販
売者も利益があがり、効用が
高くなります。また、青年と
販売者以外の人の効用がこの
取引で下がらないとします。
厚生主義の観点からは、青
年と販売者の効用が高くなる
のだから社会全体としても良
いことで、危険ドラッグを規
制する政策は望ましくないと
考えます。しかし多くの人が、
「危険ドラッグのように依存
性がある財の消費を好むよう

になるのは倫理的に好ましく
ない」と感じるのではないで
しょうか。そうであれば、多
くの人は純粋な厚生主義者で
はないこととなります。
この連載では倫理観と価値
観と経済学の間を通じた、
心の絆を深めるために政府や
個人はなにができるかを考え
たいと思います。

おおがき・まさお 58年生
まれ。米シカゴ大博士。専門
はマクロ経済学、行動経済学